希学園　第391回　公開テスト　小5　国語　2024年12月8日実施【模範解答】　制限時間40分

1

1 直感・天啓

2 エ

3 Ⅰ 進化 Ⅱ 発生（1 順不同）

4 進化の結果

5 ④ 発〜程 ⑤ ゲ〜ム（3 完答）（5 完答）

6 ア

7 ウ

8 （記述題）

9 A も　B く　C 正

10 a 残念　b 置いて　c 初対面

2

1 a 心底　b 予約　c 放課後

2 A エ　B ウ　C キ

3 Ⅰ イ　Ⅱ ア　Ⅲ エ　Ⅳ ウ（3 完答）

4 イ

5 イ

6 エ

7 （記述題）

8 ウ

9 悲しそ（3 完答）

10 ア・カ（10 順不同）

1

8 ヒトが進化の過程でどのようにしてしっぽを失ったのかを解明するための希望が見えたという。（同意可）

2

7 クラスに漂う、兄が窃盗で捕まったことで辻さんをからかい、あざ笑う雰囲気。（同意可）

配点	
1 9・10 2 1・2	各2点×12＝24点
1 8 2 7	各6点×　2＝12点
その他	各4点×16＝64点
	100点

希学園　第391回　公開テスト　小5　国語　2024年12月8日実施　【解説】

1

1　話題のつながりに沿ってたどっていく。「しっぽの神はある日、私の耳元でそんな風に囁いた」が、この気づきについて述べており、その続きに「私は…自分の直感に正直に生きてきた。それも影響したのかもしれない」とある。今回の気づきも「直感」なのである。さらにその続きには「この〝天啓〟を受けた私は…」とある。

2　続きに「ヒトにしっぽが生えているのは、ヒトとして生まれる前の段階だ」とあり、生まれる前の体がかたち作られていく過程を発生過程と呼んでいた。この間にしっぽが作られるが、生まれる前には完全に消え失せてしまうとあった。生まれるときにはすでに体の形は完全にできあがっているはずであるため、エが適当。ウは受精卵の段階でしっぽがあるというのがおかしい。

3　〔　Ⅰ　〕は「ヒトという種に至る」から、〔　Ⅱ　〕は「個体がかたち作られる」からそれぞれ決まる。

4　ケーキのたとえ話をはさんだ後に「なぜ、進化を知りたいがために発生過程の研究をしようと思い至ったのか。それは…」と、問いかけと答えの形で述べられている。

5　④は「体のかたち作りの過程、すなわち発生過程」、⑤は「レシピ本が生き物でいうところのゲノムに相当する」からそれぞれ決まる。

6　空らんを含む一文が「もう少し言い換えるなら、進化とは【　Ⅲ　】とも表現できる」となっているため、この一文が直前の言い換えになるものを選ぶ。ア以外はいずれも言い換えにならない。イを選ぶと、進化と発生が同じものだということになってしまう。二つは全く別の意味を持つ言葉だが、発生による変化が積み重なっていって進化と言われるのである。ウでは因果関係が逆になる。進化が発生を規定する（決める）のではない。エは「でしか解明できない」が言い過ぎ。

7　前書きに、筆者がどういう研究に行き詰まっていたのかが記されている。常に話題を頭に入れて読み進めよう。

8　「どういうこと」と問われているため、傍線部を言い換える。「一条の光」は希望を意味する。何に向けての希望なのかを考えるには問7の解答が利用できる。「が見えた」に相当する部分まで記述するのを忘れないように。

9　A「言わずもがな」は「言うまでもなく」という意味。B「目くじら」は目尻や怒った目つきを意味し、「目くじらを立てる」で「他人の欠点を取り立てて非難する」こと。C「本（もと）を正す」で「物事の起こりや原因を調べてはっきりさせる」こと。

10　a　いずれも字形が崩れないよう、筆順に気をつけて書こう。b「あみがしら」を「四」と同じ形にしないように。c「初」の部首は「しめすへん」ではなく「ころもへん」である。

2

1　a　重箱読みになっている。b「予め約束する」こと。意味まで理解しておこう。c「放課」が元々、「その日の課業が終わる」ことを意味する。

2　A「口止め」は「口外することを禁じる」こと。B「舌を巻く」は「あまりにもすぐれていて、ひどく驚く」こと。C「目を細める」は「ほほえみを浮かべる」こと。

3　（　Ⅰ　）は「ぱさぱさに乾いていた」とあるため、平らで変化のないさまを表す「のっぺりと」が入る。（　Ⅱ　）は杏の元気をなくしている様子から「しゅんと」に決まる。（　Ⅲ　）は「今回はちゃんと来てよ」という口ぶりや「強烈なボディブロー」という表現から、勢いの強さや容赦のなさを表す「ぴしゃりと」になる。（　Ⅳ　）は目立たない様子を表すことになる「ひっそりと」が入る。

4　「無神経」とは他人の気持ちを気にしないこと。「ボクシング、もうやめるんでしょ？」という発言は、大切なボクシングを奪われた心愛の気持ちを全く考えられていないものである。

5　シャドーボクシングをしているとき、心愛は生きている実感を得ていた。がまんしていたことではない。

6　「虫がいい」とは身勝手であること。それまでこはくに合わせる顔がないと感じていたのに、このときはこはくに会いたがっているのである。アは「こはくを巻きこもうとしてしまっている」が、イは「今すぐ会いに行こうとしている」が、ウは「一度はあきらめた」がそれぞれ不適当。

7　「そんな」の指示内容を確認する。「具体的に」とあるため、比喩表現をそのまま使用せず解きほぐしていこう。

8　「胸が弾む（踊る）」がわくわくすることを意味するため、ウに決まる。

9　「全開の笑顔」と対照的なのは、ネガティブな、悲しげな表情であろう。こはくの表情描写を丁寧に探そう。場面そのものが対照的になっているところにある可能性が高いはず。

10　アの「ボクシングを始めたことで充実感を得ていた」は「ボクシングのない毎日は…ぱさぱさに乾いていた」から正しいと分かる。「鬱屈した日々」が「再び」なのは、「すべてが元にもどってしまった」から読み取れる。カの「こはくは…実力者である」ということは「こはくの技術の高さ」から読み取れる。心愛を仲間だと思っていることは「おかえり。待ってた」という発言から分かる。イは「山内さんがお母さんに伝えてしまった」が誤り。お母さんに言ったのは杏である。ウは「他者に対して関心が薄く」が誤り。『『銅線どろぼう』』というセンセーショナルな言葉に、杏が飛びつかないわけがない」とある。エは「今まで打ち明けていなかった」が明らかに本文と矛盾する。オの「ひとりでいること」を「楽だと感じている」のは辻さんではなく心愛である。

以　上